

着衣着火にご注意を！

着衣着火とは、こんろや暖房器具などの火が衣服に着火し、燃え広がる火災をいいます。

金沢市内では、過去5年間で着衣着火による火災が12件発生し、2名(いずれも高齢者)の方が亡くなっています。

1. 着衣着火の事例

- ・調理中に鍋をのぞき込んだ際にこんろ火が衣服に着火
- ・調理中にこんろ奥の調味料を取ろうとした際に袖口に着火
- ・ストーブのガードが壊れ、取り外した状態で体を温めていたところ、衣服に着火
- ・仏壇の清掃をしようとした際に、ローソクの火が袖口に着火



独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE) 提供

2. 着衣着火を防ぐポイント

- ・火を扱うときは、袖や裾が広がっている服は着火しやすいので避けましょう。
- ・調理中は衣服が炎に接しないよう、注意しましょう。
- ・こんろの奥に、物を置かないようにしましょう。
- ・暖房器具は、安全な距離を保って使用しましょう。
- ・火が接しても着火しにくい防災品のエプロン・アームカバーの使用をお勧めします。



〈もしも着衣着火してしまったら〉

- ・すぐに水をかぶって火を消して下さい。
- ・水がない場合は、その場に転がって、燃えているところを地面におしつけて消火して下さい。走ると、かえって火の勢いを大きくしてしまいます。

(倒れることで顔の前に火が上がるのを防ぐ効果があります。)